

Vol.007

20 October 2020

Plaza 通信 Vol.007 の内容

◇ 地域における多文化推進プラン改定のポイント
～外国人住民が活躍する地域づくり

10月のプラザ

生活ガイダンスをビデオで配信中！

プラザでは、地域における多文化共生の推進で提案される生活オリエンテーションを既に今年はじめから開催してまいりました。ところが新型コロナウイルス感染防止で対面での生活ガイダンスは中止となりました。

現在は、ビデオによって配信しています。最近では9月に新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)について日本語、英語で紹介しました。9月は、幼稚園・保育園の情報を紹介する予定です。



詳細・開設時間などは下記へ：

熊本市国際交流振興事業団

860-0806

熊本市中央区花畑 4-18

熊本市国際交流会館2階

TEL 096-359-4995

e-mail

soudan@kumamoto-if.or.jp



ホームページのQRコード



FacebookのQRコード

ぶらざ つうしん Plaza 通信



たぶんかきょうせい かんが
～多文化共生を 考 える～

◇ 地域における多文化共生推進プラン改訂のポイント

今年9月10日、総務省が「地域における多文化共生推進プラン」改訂をホームページ上に発表しました。前回の推進プラン策定は平成18(2006)年でしたので、14年ぶりに見直されたことになります。日系南米人等の外国人住民の増加を背景にはじめて多文化共生推進プランが策定されたのですが、この14年間で外国人住民を取り巻く環境は大きく変わり、「多文化共生の推進に関する研究会」(座長：山脇啓造明治大学教授)を経て、さらなる地域における多文化共生の推進に向け、改定されました。

本稿では、改訂のポイントについてご紹介いたします。

平成18(2006)年の日本の外国人住民数は約200万人でしたが、令和元(2019)年には約290万人へ増加しました。少子高齢化の影響での人材不足は生産性の向上だけでは対応することが難しく、技能実習として働く外国人住民が増え、平成31年4月には新しい在留資格として「特定技能」が施行されました。少子高齢化は地方ほど深刻で、大都市だけでなく地方においても外国人労働者が増加し、国籍も多様化しています。

社会状況では、デジタル化が進展し、Google トランスレーター、ボイストラ等の翻訳ツールが開発されました。

自然災害が激甚化し、今年、熊本では、7月の球磨川の氾濫で大きな被害が発生し、9月には大型の台風10号が通過しました。言葉や文化・習慣が異なる外国人は災害時要援護者となり、防災や災害時に彼らを孤立させない対応が求められます。

まず、はじめてに、平成18年(2006年)の推進プランの概要は、次のとおりです。

- ① コミュニケーション支援 ・ 地域における情報の多言語化 ・ 日本語及び日本社会に関する学習の支援
- ② 生活支援 ・ 居住 ・ 教育
 - ・ 労働環境 ・ 医療 ・ 保健 ・ 福祉 ・ 防災
 - ・ その他
- ③ 多文化共生の地域づくり ・ 地域社会に対する意識啓発 ・ 外国人住民の自立と社会参画

日系南米人等が工業地域で増加した当時、日本全体は高齢化前で、外国人住民をゲストワーカー的に支援の対象と考えていました。時が経過し全国的に少子高齢化が進展する中、外国人・日本人住民が支え合う多文化共生の地域づくりを推進することが必要になってきました。

コーディネーター 紹介！ 田辺寿一郎さん

本通信からプラザに関わる人物を紹介していきます。第1回目は、開設当初から日本語・英語対応と総合コーディネーターをしている田辺寿一郎さんにインタビューしました。

① 外国人住民の課題

日本語が充分でなく必要な生活や行政サービス情報にアクセスできていないことがあります。地域での情報の多言語は決して充分でないと考えます。一方、プラザ等で多言語情報があっても、アクセス情報が伝わっていないことも課題です。

また、国勢調査など母国にないシステムへの対応が課題になります。(情報量の違い)

② 地域への提案

地域の日本人住民が、同じ地域に、言葉や文化・習慣が異なる外国人住民が暮らしていることをもっと認識することが必要です。お互いに違いを理解し、受け入れていくことが大変重要だと考えます。

③ プラザができること

現在、外国人住民の方々からの多様な相談に対応しています。多文化共生地域づくりを推進するには、日本人住民へ外国人住民の方々の状況をもっと知っていただく必要があります。日本人住民の方々にも、ぜひ、プラザにお越しいただきたいと願います。また、プラザからも各地域を訪問しながら、外国人住民のコミュニティのことや多文化共生社会づくりについてお話をさせていただく機会をつくっていきたくと考えます。

プラザをどうぞよろしくお願いします。

外国人住民が活躍する地域づくり

令和2年(2020年)の推進プランの概略は次のとおりです。

- ① コミュニケーション支援 ・ 行政 ・ 生活情報の多言語化、相談体制の整備 ・ 日本語教育の推進 ・ 生活オリエンテーションの実施
- ② 生活支援
 - ・ 教育機会の確保 ・ 適正な労働環境の確保 ・ 災害時の支援体制の整備 ・ 医療 ・ 保健サービスの提供 ・ 子ども ・ 子育て及び福祉サービスの提供 ・ 住宅確保のための支援 ・ 感染症流行時における対応
- ③ 意識啓発と社会参画支援 ・ 多文化共生の意識啓発 ・ 醸成 ・ 外国人住民の社会参画支援
- ④ 地域活性化の推進やグローバル化への対応 ・ 外国人住民との連携 ・ 協働による地域活性化の推進 ・ グローバル化への対応 ・ 留学生の地域における就職促進

地域としての多文化共のポイント：

⇒ やさしい日本語でのコミュニケーション、地域ルールや行政サービスを知る生活オリエンテーションが提案されています。

相談プラザでは、毎月1回、生活ガイダンスを開催しています。(現在、新型コロナウイルスの影響でビデオを作成し、YouTubeで配信しています。)

⇒ 各省庁における多文化共生総合対応策で横断的な外国人住民への支援策が出されました。また、新型コロナウイルスという新しい脅威への対応が加わりました。

各地域では、状況に合わせて、多文化共生の地域づくりを進めていくことが必要です。

⇒ 外国人住民が地域住民として、活躍できる社会がキーワードです。

外国人住民が、地域住民と交流することで、高齢者や障がい者等弱者を支援する側となり、また地域活性化の主役になることができるのです。

総務省「地域における多文化共生推進プラン」改訂通知に関するホームページ



プラザのコーディネーター
田辺寿一郎さん
(日本語・英語)
熊本大学法学部、HIGO
プログラム非常勤講師
(専門: 平和紛争学)

熊本市の在留外国人(10月度速報)

在留外国人数/総人口 6,354 人/732,543 人(外国人比率 0.86%)

9月の
相談プラザ
相談件数
92件